

NPOの行う事業を評価 コミュニティ・シンクタンク「評価みえ」などの取組

地域コミュニティの脆弱化等を背景として、行政はもとより、一般の市民の人々や企業の間でも、NPOの行う活動に関心や期待感が高まっています。

一方で、企業とは異なり、NPO等の非営利の世界では、行った事業が適切であったかどうかの評価や情報公開が不足している面があり、そのことが、NPOが行う活動の更なる改善や、行政や民間等の支援者からの信頼を獲得して寄付などの支援につなげていくための隘路となっている面があります。

三重県にある特定非営利活動法人コミュニティ・シンクタンク「評価みえ」(<http://www.hyouka.org/index2.shtml>)では、NPOが自分たちの事業を振り返り次に活かしたいという意欲、成果や改善点を明らかにする「道具」を持つことにより、自分たちの実力を養うとともに、行政や企業といったパートナーと意見交換を活発にし、連携（協働）を進めたいとの強い思いを端緒として、NPOが行政と協働して行った事業又はNPOが行った事業を評価するシステムである「評価システム2000」を作成しました。この「評価システム2000」は、「この事業はあなたの団体のミッションとあっていましたか」、「この事業を行うにあたっての明確で測定可能な目標が設定されましたか」といった質問に対して回答していくことで評価がわかるチェックシートとなっています。「評価みえ」では、「評価システム2000」を活用しつつ、評価に関する講演会等における講師派遣や「評価みえ」による事業の外部評価を実施するなど、NPOにおける評価の導入に取り組んでいます。

また、教育援助を中心にフィリピンで活動を展開する東京都の特定非営利活動法人21世紀協会(<http://www.21ca.ac/>)では、これまで行ってきた事業の自己評価をインターネットのホームページに掲載しています。

こうした動きが活発になることで、今後、NPOが、行政・市民・企業と強固なつながりをもって、ますます成長していくことが期待されます。